

繪入

武馬必用

五

内閣文庫	
番號	和 17243
冊數	5 (5)
函號	154 415

内閣文庫		
五	一	和
函	七	
二	二	書
〇	四	
架	五	類
	冊	號
	三	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



大坪中流武馬必用卷之五

醫馬 目錄

漢學文庫

一 醫馬の監觸附 伯系法流の傳記

一 健馬形牒乃事

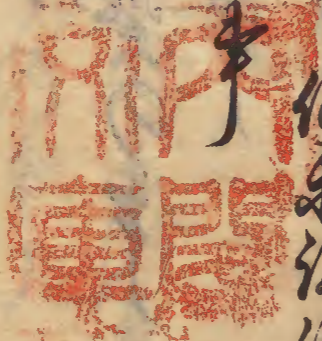
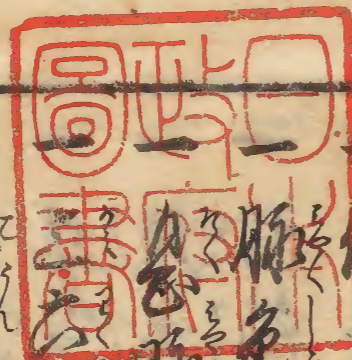
一 服色の事

一 馬廄乃事

一 又運無休の事

一 二 乃事

一 湯釜塵の事



大坪中流武馬必用卷之五

一 七傷八邪の事

一 又方乃其

一 又方乃其

一 口色はんく回季王分の病は

一 點痛の中

一 七箇乃其

一 十二經絡の中

一 針灸傳の事

一 去初血は

一 くららの汁の

一 子醫と撰

一 性物敷の事

一 消黄敷の事

一 息相葉の事

一 強の

一 内

一 目葉乃其

一 色生葉の事

一 たいとの説乃其

一 子

一 馬の尻の
 一 毛振うる日尻をさうする時
 一 家々へ取巻乃任と知り事
 一 節月の菜と香の理の事
 一 肩振るを扱乃事
 一 湯洗の川入の度
 一 湯をよ洒くする時
 一 粥をよみわら事
 一 和理を以て法に依る時
 一 乃事

一 馬の尻の
 一 毛の振うる日尻をさうする時
 一 家々へ取巻乃任と知り事
 一 節月の菜と香の理の事
 一 肩振るを扱乃事
 一 湯洗の川入の度
 一 湯をよ洒くする時
 一 粥をよみわら事
 一 和理を以て法に依る時
 一 乃事

乃名醫の著述あり。後公を叙と録し
 て。他系抄軍とり。小史より。必集ると
 醫とらん。と。うして。他系と。は。り。と
 也。今代を。併。成。り。し。て。療。治。と。考
 と。人。多。し。一。系。家。公。乃。醫。叙。乃。書。も。既
 外。乃。皇。子。の。醫。綱。中。記。と。な。り。て。編
 り。の。あり。度。公。の。書。と。似。く。深。く。醫。療
 と。あ。ん。と。あ。り。る。細。大。全。繆。公。案。撰。
 元。亨。良。馬。集。朝。鮮。の。後。考。の。如。く。な。り。て。
 傷。の。あ。ち。と。考。く。療。治。と。の。と。一。傷。を

大醫流の醫叙の書わり。その内。小史。今史
 第二巻。今史。必。乃。事。代。記。の。如。く。な。り。
 歟。よ。お。り。し。る。と。書。あり。小。河。系。流。が
 天。心。圖。樞。も。乃。と。書。あり。楊。本。乃。流
 の。活。案。集。も。よ。と。書。あり。療。治。本。乃。の。系。友
 昌。階。乃。療。醫。明。驗。集。も。よ。と。書。あり。編。り。書。あり
 業。務。類。ひ。は。小。史。流。乃。醫。中。も。如。り
 り。と。中。多。し。一。聖。師。の。記。述。と。な。り。り
 志。臣。使。の。活。案。も。名。師。の。記。述。の。如。く
 病。と。し。事。の。二。世。の。言。の。合。成。絶。て。も。大

口色五分



一息脈とよめる呼吸の音とよめる病代初り
 半なり又觀動の脈とよめる芭蕉色乃
 病代初り脈とよめる病代初りありそ
 病代初り脈とよめる病代初りありそ
 そのあり

一上六脈下六脈とのありは六陽
 六陰ともあり
 眼脈厥陰肝經
 胸堂小陰心經
 夜眼厥陰苞絡
 鵝脈大陰肺經
 同筋大陽小腸經
 膝脈陽明大腸經

武馬券云々

勞傷少陽膽經
尾本太陽膀胱經
曲池陽明胃經

帶脉大陰脾經
腎堂小陰腎經
蹄頭少陽三焦經

右の經絡はたして汗をきりどらす
づき事之。經絡とあつらひて。生功わ
んせ。世上は。蹄門の筋とより。ド
多分て。田只。血をさす。より。つら。庭
おのる。書とよと。ん。つら。よ。贊と。さま
引。筋あり。かろ。あ。よ。蹄。以。さ。少。陽。三。焦
經。と。さ。あ。つ。せ。り。あ。て。血。の。こ。め。の。汗。よ

き。わ。ら。ら。こ

一 又。運。無。休。と。り。あ。り。り。伯。孟。の。妙。へ。さ。事。こ
肝木膽腑眼筋凡
脾土胃腑唇肉乳
腎水膀胱耳骨齒

心火小腸舌血毛
肺金大腸鼻皮息

一 二。筋。と。り。の。事。を。心。小。腸。肝。膽。腎。膀。胱
右。肺。大。腸。脾。胃。命。門。と。な。る。よ。め。く。脈。色
さ。ら。ら。か。い。ま。の。之

一 陰。湯。盛。屋。と。り。の。事。わ。り。筋。の。あ。ら。う。む。し
く。さ。ら。と。り。の。事。を。右。造。と。り。の。事。を。陽。氣。の

中あり。上焦の血と物と中人。下焦の針とて。
 上焦の血は引上げ。三焦の熱は代換する。サ
 マリ。四端の血のたりよのあつらるまじと
 あり。

痛切はわらうらるる醫の業。用はすん
 脈色の沈こまらりとし。浮沈は数
 法強とよく病あり。病根は初るゆあり
 ころれ物く。業は伸やし。脈と初る形
 状とあり。業相あるは。ぬるるありが中人
 あり。さあり。さあり。さあり。人。所見脈

形状とよく。人あり。さあり。さあり。さあり。中人
 を業と表の辨はあり。その外は。流るる尿
 液。密液あり。その形は。代換する。さあり。あり。
 形とよく。身とあり。一。或は。腎の弁は
 あり。し。は。れ。生。死。も。あり。は。る。さ。あり。
 佛ののさく。地獄あり。いれ
 見や。み。本。業。ら。さ。あり。と。さ。あり。れ。と
 の。や。さ。ひ。め。く。と。あり。て。せん。あり。
 能。毒。と。初。り。中。は。拾。八。及。拾。九。段。と。て。忘。れ。て
 る。業。あり。さ。代。初。る。さ。あり。加。味。と。あり。

ありしをわすれしをいふ。うんた物とて
 一或人もの二ツ葉成りて。即ちすはるを
 秘方とてり。由はる葉の病は対し
 功ありしや奇效なる後ありき。平はゆふ
 身ひさしく病葉と成りて。即ちすはるは
 源氏牡丹教之を成りしり。その病のうらと
 七ヶ七夜焼く。その夜毎に薬の汁とす。その
 焼七日の内は指を焼く。その後よく
 物ありて。そのの口と洗ひ。たの葉と成りし
 知のうらあそはる。その月。そののうらあそはる

かく惚く。そのの葉色のうらり。そのうらり
 一。わらり。そのとわらり。そのうらり
 一。葉のうらり。そのとわらり。そのうらり
 あり。そのうらり。そのとわらり。そのうらり
 後。そのうらり。そのとわらり。そのうらり

酒葉散

葛葉	貝母	知母	大黃	牡丹
黃芩	鬱金	耳草	石菖蒲	茯苓

粉より。そのうらり。そのとわらり。そのうらり
 時。そのうらり。そのとわらり。そのうらり

一 口と洗白息相美と何うう
 一 徳意ありけり。憐れなる目とけり。事わ
 らぬ。敵の業はしむ。ゆとく。生けと
 目の内人。吹く。れど。あ。り。の。と。あ。り。て
 一 智目。空目。よ。実目。よ。ま。れ。て。り
 一 も。ま。あ。る。ゆ。と。り。の。馬。焼。と。解。き。と
 一 珍。合。と。て。も。の。ま。る。あ。と。能。満。て
 一 一。を。標。榜。と。扱。を。分。く。一
 一 世。俗。よ。の。と。く。さ。の。り。苗。流。よ。も。胸。近
 一 と。く。ハ。修。よ。ま。る。と。ゆ。は。一。内。者。ま。い

一 一。と。あ。り。又。或。人。は。お。き。大。湯。と。て
 一 一。あ。ま。の。の。と。わ。り。と。り。り。忠。齋。の。信。あ。ま
 一 一。大。意。と。死。ま。は。中。色。弁。よ。あ。ら。る。と。あ。り
 一 一。る。服。と。あ。ら。る。進。む。も。と。み。ら。わ。ひ。と。て
 一 一。物。下。あ。つ。と。倒。る。と。あ。れ。と。あ。り。て。書
 一 一。と。信。と。書。非。敵。と。り。あ。り。精。神。と。あ。り。て
 一 一。死。ま。る。り。り。傷。あ。り。又。又。十。の。の。数。あ。り
 一 一。古。官。の。事。あ。り。留。の。信。地。と。あ。り。て。あ。り
 一 一。信。家。の。代。美。の。信。と。あ。り。て。あ。り。あ。り
 一 一。和。白。の。お。り。と。下。松。の。信。あ。り。一。女。忍。ぶ。と

此はよき事也。又向元とれり。物を長伸
ざりしものこりしと

一或人乃りるを。馬中み衆さううん。又
まの教しうみ事あり。まると一代めて
あふ中を。類と絶のたわりて。ゆさ
よに絶よ者中あり

右は乃きき。唯念意よまうせ。志の乃ゆ
あはさるものあり。功老若し人をも
まらし。項氏物みく。あふべられも。法

より。法よまらる。唯念意よまうせ。志の乃ゆ
あはさるものあり。功老若し人をも
まらし。項氏物みく。あふべられも。法
あふらあもあり。又衆のまらりしと
あふんよのあう。われとみまよより
て。大時中流乃。あはせらりしとあり。夫
比。遠子満。一。句。物。色。極。と。まらる。而。そ。一
費。回。の。も。怨。あ。り。し。も。廣。り。衆。の。法。を。
法。の。細。砂。の。と。し。常。に。又。よ。南。西。移。正
乃。逆。糸。相。叙。一。後。の。の。法。勢。又。一。針

負業法礼叙ノ競馬競馬流痛子判
 遊和^ノ如^シ遊^ル心^ヲ道^ヲ無^ク草^ノ麻^ノ八^ノ的^ノ揮^ル心^ヲ
 将念^ノ歴^ノ宗^ノ貞^ノ名^ノ法^ノ叙^ノの^ノ礼^ノ軍^ノ叙^ノ馬^ノ
 撰^ル馬^ノ教^ノ遠^ノ赤^ノ川^ノ系^ノ相^ノ見^ノ部^ノ合^ノ地^ノ付^ノ法^ノを
 の^ノ扱^ノ軍^ノが^ノの^ノ位^ノを^ノわ^ノり^ノ是^ノ以^ノて^ノ左^ノ評
 中流^ノの^ノ一^ノ部^ノと^ノの^ノを^ノ古^ノ書^ノの^ノ中^ノに^ノ有^ノり^ノ理^ノ地^ノの
 是^ノに^ノわ^ノら^ノう^ノう^ノの^ノら^ノる^ノを^ノお^ノそ^ノれ^ノわ^ノる^ノゆ^ノへ^ノ是^ノ以^ノて
 唱^ルして^ノあ^ノら^ノう^ノと^ノあ^ノら^ノう^ノを^ノそ^ノの^ノり^ノと^ノ之^ノ庶^ノ幾^ノ
 好^ノの^ノ歌^ノ子^ノは^ノ集^ノり^ノ從^ノあ^ノわ^ノる^ノを^ノ改^ノむ^ノし^ノ如^ノく^ノ璞^ノ玉^ノ
 是^ノに^ノ自^ノら^ノの^ノ身^ノを^ノ今^ノく^ノ光^ノ頭^ノを^ノが^ノと^ノく^ノあ^ノん^ノう^ノ

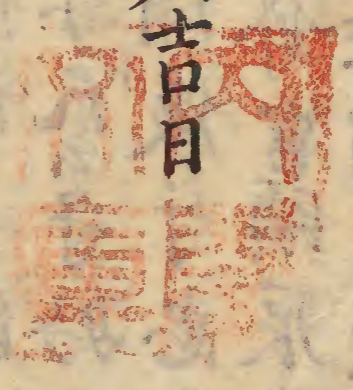
當流之系傳

- 大坪式部太輔廣秀
- 村上加賀守永幸
- 存藤備前守國忠
- 存藤安藝守好玄
- 存藤備後守忠玄
- 存藤存官頭辰遠
- 丹羽住僧了慶坊
- 存藤 來馬辰光
- 存藤 主税定易

八島史之五

七六

享保貳酉年正月吉日



日本橋南通町目

須原屋治右衛門藏板

